

平成31年度 行政評価事業別シート

実計対象	<input checked="" type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input checked="" type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	長野 丸山
全体計画	平成30年度 ~ 令和 2年度			経費区分	実施計画事業費			内線	3254		
事務事業名	14638 小規模水道施設整備事業										
所 属	121000 市民環境部・生活環境課										
施 策	06023200 水環境の保全と水道水の安定的な供給										
予算科目	会計	01 一般会計									
	科目	040301 衛生費・水道費・水道費									
	事業	020000 小規模水道施設整備事業									
事業目的						事業概要・効果					
峰の原地区の住民に安心して安定的な水を供給する。						峰の原地区の一部水道事業区域の市営化のための実施設計業務を行った。 水道管等布設替え工事を行う。					

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
平成29年度 実績	平成30年度 実績
	実施設計業務委託 47,974千円（繰越） 設計監理業務負担金（水道局） 500千円
平成31年度 予定	令和 2年度 予定
配管工事（仮配管設置）	配管布設替え工事 配水池、送水ポンプ室等築造工事 機械電機計装設備工事

指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成30年度 決 算	平成31年度 予 算
事業費		0	226,600
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	203,900
	その他	0	0
一般財源		0	22,700
人員数(人)	正規職員	0.0	0.6
	嘱託職員	0.0	0.3
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	0.0	4,290.0
	嘱託職員	0.0	862.5
	臨時職員	0.0	0.0
	計	0.0	5,152.5
市民一人当たりの経費		0.0	4.4
総額		0.0	231,752.5

(単位：千円)

平成30年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

(単位：千円)

平成31年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	220,000	配管工事
19節 負担金補助及び交付金	6,600	監理業務負担金（水道局）
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	老朽化した水道施設設備を更新し、区域内住民への将来に亘る安定給水の維持確保する。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	老朽化した水道施設設備を更新し、区域内住民への将来に亘る安定給水の維持確保する。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	辺地対策事業債を活用。 施設設備の更新に際し、配水池の大きさを使用現況に応じた容量に縮小するなど適正規模の施設設備を検討した。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

適正規模、適正施設となるよう、設計業務委託を受託した新日本設計㈱、監理業務を担当する水道局と連携して取組んだ。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
区域内住民に安心かつ安定的な水を供給するためにも 辺地対策事業債を活用し、老朽化した水道施設設備を 更新することは必要不可欠である。		エリア内への生活水を安心かつ安定的に供給するため 、有利な辺地対策事業債を活用し、早急に老朽化した 水道施設設備を更新する必要がある。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	